

当ファンドは、特化型運用を行います。

■当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	追加型投信／内外／資産複合
信託期間	2014年7月1日から2024年11月13日まで
運用方針	マザーファンドへの投資を通じて、主として、トヨタ自動車およびそのグループ会社の株式、債券等に投資し、信託財産の中長期的な成長を目指して運用を行います。
主要投資対象	当ファンドは以下の各マザーファンドを主要投資対象とします。 トヨタグループ株式マザーファンド トヨタ自動車およびそのグループ会社のうち、日本の取引所に上場している株式 トヨタグループ・グローバルボンド・マザーファンド トヨタ自動車およびそのグループ会社の発行する内外の債券等
当ファンドの運用方法	■トヨタ自動車およびそのグループ会社の株式と債券等に投資します。 ■株式に対する強気・弱気局面への転換点を判断し、機動的な資産配分調整を行います。 ■外貨建資産については、原則として対円での為替ヘッジを行いません。
組入制限	当ファンド ■株式への実質投資割合には、制限を設けません。 ■外貨建資産への実質投資割合には、制限を設けません。 トヨタグループ株式マザーファンド ■株式への投資割合には、制限を設けません。 ■外貨建資産への投資割合は、信託財産の純資産総額の20%以内とします。 トヨタグループ・グローバルボンド・マザーファンド ■株式への投資割合は、信託財産の純資産総額の10%以下とします。 ■外貨建資産への投資割合には、制限を設けません。
分配方針	■年4回（原則として毎年2月、5月、8月、11月の13日。休業日の場合は翌営業日）決算を行い、分配を行います。 ■分配対象額は、経費控除後の利子、配当等収益と売買益（評価損益を含みません。）等の範囲内とします。 ■分配金額は、委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。 ※委託会社の判断により分配を行わない場合もあるため、将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。

トヨタグループ・ バランスファンド

【運用報告書(全体版)】

第17作成期（2022年5月14日から2022年11月14日まで）

第 **32** 期 / 第 **33** 期

第32期：決算日 2022年8月15日

第33期：決算日 2022年11月14日

受益者の皆さまへ

平素は格別のお引立てに預かり、厚くお礼申し上げます。

当ファンドはマザーファンドへの投資を通じて、主として、トヨタ自動車およびそのグループ会社の株式、債券等に投資し、信託財産の中長期的な成長を目指して運用を行います。当作成期についても、運用方針に沿った運用を行いました。今後ともご愛顧のほどお願い申し上げます。

 **三井住友DSアセットマネジメント**

〒105-6426 東京都港区虎ノ門1-17-1
<https://www.smd-am.co.jp>

■口座残高など、お取引状況についてのお問い合わせ
お取引のある販売会社へお問い合わせください。

■当運用報告書についてのお問い合わせ

コールセンター 0120-88-2976
受付時間：午前9時～午後5時（土、日、祝・休日を除く）

トヨタグループ・バランスファンド

原則として、各表の数量および金額の単位未満は切捨て、比率は四捨五入で表記しています。ただし、単位未満の数値については小数を表記する場合があります。

■ 最近10期の運用実績

決算期	基準価額			株式組入比率	公社債組入比率	純資産総額
	(分配落)	税込分配金	期中騰落率			
	円	円	%	%	%	百万円
24期(2020年8月13日)	9,428	0	11.1	71.4	26.9	3,810
25期(2020年11月13日)	9,658	0	2.4	49.8	47.1	3,777
26期(2021年2月15日)	10,547	290	12.2	49.1	48.6	3,528
27期(2021年5月13日)	10,302	430	1.8	64.2	31.8	3,232
28期(2021年8月13日)	10,324	740	7.4	24.8	48.2	3,014
29期(2021年11月15日)	10,432	190	2.9	50.3	46.6	3,057
30期(2022年2月14日)	10,259	0	△1.7	63.7	32.2	3,167
31期(2022年5月13日)	10,021	0	△2.3	24.4	48.6	3,172
32期(2022年8月15日)	10,223	0	2.0	49.3	48.4	3,388
33期(2022年11月14日)	10,139	0	△0.8	24.1	47.3	3,385

※基準価額の騰落率は分配金込み。

※当ファンドは親投資信託を組み入れますので、比率は実質比率を記載しています。

※株式組入比率には、新株予約権証券を含みます。

※当ファンドの運用方針に対し適切に比較できる指数がないため、ベンチマークおよび参考指数はありません。

■ 当作成期中の基準価額と市況等の推移

決算期	年 月 日	基準価額		株式組入比率	公社債組入比率
		騰落率	騰落率		
第32期	(期首) 2022年5月13日	円	%	%	%
	5月末	10,021	—	24.4	48.6
	6月末	10,195	1.7	25.2	48.4
	7月末	10,125	1.0	48.2	49.2
	(期末) 2022年8月15日	10,150	1.3	48.1	49.2
第33期	(期首) 2022年8月15日	10,223	2.0	49.3	48.4
	8月末	10,223	—	49.3	48.4
	8月末	10,298	0.7	24.7	47.8
	9月末	10,004	△2.1	22.4	48.7
	10月末	10,345	1.2	23.8	48.0
	(期末) 2022年11月14日	10,139	△0.8	24.1	47.3

※騰落率は期首比です。

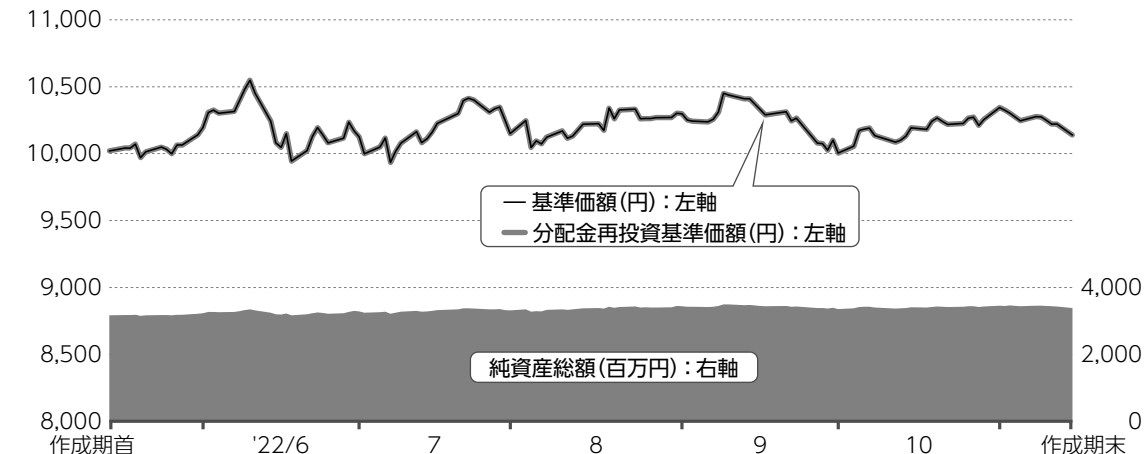
※当ファンドは親投資信託を組み入れますので、比率は実質比率を記載しています。

※株式組入比率には、新株予約権証券を含みます。

1 運用経過

基準価額等の推移について(2022年5月14日から2022年11月14日まで)

基準価額等の推移



※分配金再投資基準価額は、作成期首の値が基準価額と同一となるように指数化しています。

作成期首	10,021円
作成期末	10,139円 (当作成期既払分配金0円(税引前))
騰落率	+1.2% (分配金再投資ベース)

分配金再投資基準価額について

分配金再投資基準価額は分配金(税引前)を分配時に再投資したと仮定して計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示します。

※分配金を再投資するかどうかについては、受益者の皆さまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額などによって課税条件も異なります。したがって、受益者の皆さまの損益の状況を示すものではありません。(以下、同じ)

※当ファンドの運用方針に対し適切に比較できる指数がないため、ベンチマークおよび参考指数はありません。

基準価額の主な変動要因(2022年5月14日から2022年11月14日まで)

当ファンドは、マザーファンドへの投資を通じて、主としてトヨタ自動車およびそのグループ会社*のうち、日本の取引所に上場する株式および内外で発行する債券等に投資しました。また、市場のリスク選好状況を定量的に捉えて市場の局面判断を行うとともに、局面転換に応じて機動的な資産配分を行いました。外貨建資産については、対円での為替ヘッジを行っていません。

※グループ会社とは、株式の場合はトヨタ自動車の有価証券報告書、四半期報告書およびこれらに準じる公開情報に開示される連結子会社、持分法適用関連会社をいい、債券の場合はトヨタ自動車の国内外の連結子会社および持分法適用関連会社(非上場会社を含む)をいいます。

上昇要因

- トヨタグループ株式マザーファンドの基準価額が上昇したこと
- トヨタグループ・グローバルボンド・マザーファンドの基準価額が上昇したこと

当ファンドは特化型運用を行います。

- トヨタ自動車の株式および債券等の純資産総額に対する比率は35%を超えないものとします。
- 当ファンドは、トヨタ自動車およびそのグループ会社の株式および債券等に集中して投資を行うため、当該銘柄に経営破たんや経営・財務状況の悪化などが生じた場合には、大きな損失が発生し、ファンドの基準価額が下落することがあります。

特化型運用とは

一般社団法人投資信託協会規則の「信用リスク集中回避のための投資制限」に定められた、ファンドの純資産総額に対する比率(10%)を超えて、特定の発行体の発行する銘柄に集中して投資する運用のことをいいます。

投資環境について(2022年5月14日から2022年11月14日まで)

国内株式市場は、上昇しました。米国と豪州の長期金利(10年国債利回り)は、ともに上昇(価格は下落)しました。為替市場では米ドル、豪ドルに対して円安となりました。

国内株式

国内株式市場は、期を通じて上昇しました。期初は、インフレ指標の上振れや欧米での相次ぐ利上げに嫌気し、世界的に株式が急落したことで国内株式も同様に下落しました。しかし、その後は国内での入国制限緩和等のコロナ禍からの経済再開の動きや、根強い米ドル高・円安等に下支えされ、期末にかけて上昇基調となりました。

外国債券

米国長期金利は、期を通じて上昇しました。F R B(米連邦準備制度理事会)が物価上昇への対応として金融引き締め姿勢を明確にしたため、金利は上昇基調で推移しました。景気悪化懸念から金利は一時低下する局面がありましたが、F R Bが金融引き締め姿勢を崩さなかったことで、期末にかけて再び上昇基調となりました。

豪州長期金利は、期を通じて上昇しました。期初はR B A(オーストラリア準備銀行)の市

場予想を上回る大幅な利上げや、米国長期金利が上昇したことに連れて、上昇しました。しかし、8月にかけては世界的な景気後退懸念の強まりを受け、世界的に金利が低下したことに連れて低下し、その後は一進一退の展開となりました。期末にかけて、米国でインフレ期待の高まり等により長期金利が上昇した動きに連れて、豪州長期金利も上昇基調で推移しました。

為替市場

期末の米ドル・円は、期初と比較して米ドル高・円安となりました。期中に政府・日銀によるドル売り・円買い介入があったものの、F R Bが金融引き締めを積極化した一方で日銀が緩和姿勢を維持したことで日米金利差が拡大し、米ドル高・円安基調となりました。

豪ドル・円についても、期初と比較して豪ドル高・円安となりました。期を通じては、日豪金利差の拡大等を背景に、豪ドルが円に対して上昇基調で推移しました。

ポートフォリオについて(2022年5月14日から2022年11月14日まで)

当ファンド

「トヨタグループ株式マザーファンド」および「トヨタグループ・グローバルボンド・マザーファンド」に主に投資しました。また市場のリスク選好状況を定量的に捉えて市場の局面判断を行うとともに、局面転換に応じて機動的な資産配分を行いました。外貨建資産については、対円での為替ヘッジを行っていません。

●ハイブリッドナビ戦略[※]

期間における資産配分方針の変更時期については以下の通りです。

ハイブリッドナビ戦略では、2月以降ウクライナ情勢の緊迫から株式価格は下落、債券価格は上昇し、リスク態度指数は低位での揉み合いの動きとなっていたことから、作成期初時点では、市場は株式に対する弱気局面であると判断し、株式マザー 25%程度、債券マザー 50%程度、現預金25%程度の組入れとしました。

その後、リスク態度指数が上昇に転じたため、市場の株式に対する弱気局面は後退しつつあると判断し、6月上旬に株式マザー 50%程度、債券マザー 50%程度、現預金 0%程度の組入れとしました。

そして、株式市場はインフレへの警戒感から下落したのち、7月から消費者物価指数の上昇率が予想を下回ったこと等からインフレ

圧力緩和への期待を受けて反発しました。しかし、市場のリスク選好状況は方向性が定まらず、8月中旬には、リスク態度指数の下落基調が継続したため、移行期を終了して、株式に対しての弱気局面に入ったと判断し、株式マザー 25%程度、債券マザー 50%程度、現金等25%程度の資産配分としました。

その後、期末までは、8月のCPIが予想を上回り、FOMC(米連邦公開市場委員会)で3会合連続となる0.75%の利上げが決定され、パウエル議長等がインフレ抑制重視を強調したことから、株式市場は力強さに欠け、リスク態度指数も低位の推移を継続しているため、株式マザー 25%程度、債券マザー 50%程度、現預金25%程度の組入れを維持しました。

※ハイブリッドナビ戦略とは、リスク態度指数を用いて、株式と債券の資産配分を機動的に調整する運用戦略をいいます。また、リスク態度指数とは、市場のリスク選好度合いを計るため委託会社が独自に作成した指数です。

トヨタグループ株式マザーファンド

●ポートフォリオの特性

運用の基本方針に基づき、トヨタ自動車およびそのグループ会社のうち、日本の取引所に上場している株式から流動性を勘案した銘柄(原則として、TOPIX(東証株価指数)採用銘柄)に投資することで、トヨタ自動車およびそのグループ会社の銘柄群の動きをと

らせることを目標に運用を行いました。

●投資行動

原則として組入銘柄の時価総額に応じて投資比率を決定しますが、全期間にわたってトヨタ自動車株式の時価総額が組入銘柄の時価総額合計の50%を超えていましたので、トヨタ自動車株式の投資比率を約50%とし、残りの約50%をグループ会社株式の各銘柄の時価総額に応じた比率に近づくように運用を行いました。基本方針により四半期末を基準としてリバランス(投資配分比率の調整)を行うこととしています。2022年6月末、2022年9月末について翌月にリバランスを実施しました

日々の設定解約に伴う売買の際には、トヨタ自動車株式への投資比率が約50%、グループ会社の株式への投資比率が約50%に近づくようポートフォリオを調整しました。追加設定やリバランスに伴う現物株式の売買にあたっては、取引コストの低減に努めました。

トヨタグループ・グローバルボンド・マザーファンド

●債券組入比率

トヨタ自動車グループが発行する社債を高水準に組み入れ、安定的に金利収入を得ることができました。

●デュレーション

デュレーションについては3年程度としました。

●発行体配分

組入発行体の配分については、トヨタモータークレジット、トヨタクレジットカナダ、トヨタファイナンスオーストラリア、トヨタファイナンスネザールランドの4発行体が発行する社債を期末時点で10銘柄保有しており、最大保有発行体であるトヨタモータークレジットの保有比率は純資産総額の50%以下としています。

●通貨別配分

期末時点で豪ドル、カナダドル、米ドル、英ポンド、ユーロのエクスポージャーを有しております。外貨建資産について対円での為替ヘッジは行っていません。

ベンチマークとの差異について(2022年5月14日から2022年11月14日まで)

ベンチマークおよび参考指数を設けていませんので、この項目に記載する事項はありません。

分配金について(2022年5月14日から2022年11月14日まで)

(単位：円、1万口当たり、税引前)

項目	第32期	第33期
当期分配金	0	0
(対基準価額比率)	(0.00%)	(0.00%)
当期の収益	-	-
当期の収益以外	-	-
翌期繰越分配対象額	1,122	1,158

※単位未満を切り捨てているため、「当期の収益」と「当期の収益以外」の合計が「当期分配金」と一致しない場合があります。
 ※「対基準価額比率」は、「当期分配金」(税引前)の期末基準価額(分配金(税引前)込み)に対する比率で、当ファンドの収益率とは異なります。

期間の1万口当たりの分配金(税引前)は、基準価額水準等を勘案し、左記の通りいたしました。

なお、留保益につきましては、運用の基本方針に基づき運用いたします。

2 今後の運用方針

当ファンド

マザーファンドへの投資を通じて、主として、トヨタ自動車およびそのグループ会社の株式、債券等に投資し、株式に対する強気・弱気局面への転換点を判断し機動的な資産配分調整を行うことで、信託財産の中長期的な成長を目指して運用を行います。

ハイブリッドナビ戦略に関して、リスク態度指数は、低位での揉み合いの動きとなりましたが、米国の10月CPI(消費者物価指数)が事前予想を下振れたことで利上げペース減速期待が優勢となり、現状、市場は

株式に対する弱気局面が後退しつつあると判断しています。

そのため、今しばらく株式マザー 25%程度、債券マザー 50%程度、現預金25%程度の組入れとしますが、リスク態度指数が上昇基調に向かった際は、株式マザー 50%程度、債券マザー 50%程度、現預金0%程度の組入れとする予定です。

トヨタグループ株式マザーファンド

引き続き運用の基本方針に基づき、トヨタ自動車およびそのグループ会社の銘柄群の動

きをとらえることを目標に運用を行います。ポートフォリオの構築は、原則として組入銘柄の時価総額に応じて投資比率を決定しますが、トヨタ自動車株式の時価総額が組入銘柄の時価総額合計の50%を超える場合には、トヨタ自動車株式の投資比率を約50%とし、残りの約50%をグループ会社株式の各銘柄の時価総額に応じた比率に近づくよう運用を行います。

トヨタグループ・グローバルボンド・マザーファンド

米国では、好調な雇用環境とインフレの高止まりに対する警戒から政策金利の引き上げ継続が見込まれています。ただし、金融市場は来年には政策金利の引き上げ幅の縮小を予想しており、経済成長やインフレ率の状況を確認していく局面となりそうです。国債利回

りの上昇余地は限定的となり、大きなレンジでもみ合う展開を予想しています。

社債スプレッドは短期的には不安定な展開が予想されますが、国債利回りが落ち着いてくると社債利回りの水準に着目した投資需要に支えられ、安定化すると考えています。

米ドル・円は、米国でインフレ抑制に向けて金融引き締めが継続される一方、日本は緩和姿勢を維持していること等から、米ドル高・円安圧力が残る見通しです。しかしながら、今後の米国の利上げを市場は相当程度織り込んでいることから、米ドルの上昇余地は限定的となり、もみ合う展開を予想します。

こうした投資環境見通しをベースに、通貨配分、債券発行各国の金利見通し、デュレーション、流動性等を勘案し、主としてトヨタ自動車およびそのグループ会社の発行する社債へ投資することで、信託財産の着実な成長と安定した収益の確保を目指します。

3 お知らせ

約款変更について

該当事項はございません。

トヨタグループ・バランスファンド

1万口当たりの費用明細(2022年5月14日から2022年11月14日まで)

項目	金額	比率	項目の概要
(a) 信託報酬	56円	0.552%	信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率×(経過日数/年日数) 期中の平均基準価額は10,204円です。
(投 信 会 社)	(27)	(0.268)	投信会社：ファンド運用の指図等の対価
(販 売 会 社)	(27)	(0.268)	販売会社：交付運用報告書等各種資料の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
(受 託 会 社)	(2)	(0.017)	受託会社：ファンド財産の保管および管理、投信会社からの指図の実行等の対価
(b) 売買委託手数料	0	0.005	売買委託手数料＝期中の売買委託手数料/期中の平均受益権口数
(株 式)	(0)	(0.005)	売買委託手数料：有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(先物・オプション)	(-)	(-)	
(投資信託証券)	(-)	(-)	
(c) 有価証券取引税	-	-	有価証券取引税＝期中の有価証券取引税/期中の平均受益権口数
(株 式)	(-)	(-)	有価証券取引税：有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
(公 社 債)	(-)	(-)	
(投資信託証券)	(-)	(-)	
(d) その他費用	1	0.007	その他費用＝期中のその他費用/期中の平均受益権口数
(保 管 費 用)	(0)	(0.002)	保管費用：海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管および資金の送付金・資産の移転等に要する費用
(監 査 費 用)	(0)	(0.003)	監査費用：監査法人に支払うファンドの監査費用
(そ の 他)	(0)	(0.002)	そ の 他：信託事務の処理等に要するその他費用
合 計	58	0.564	

※期中の費用(消費税のかかるものは消費税を含む)は、追加・解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出しています。

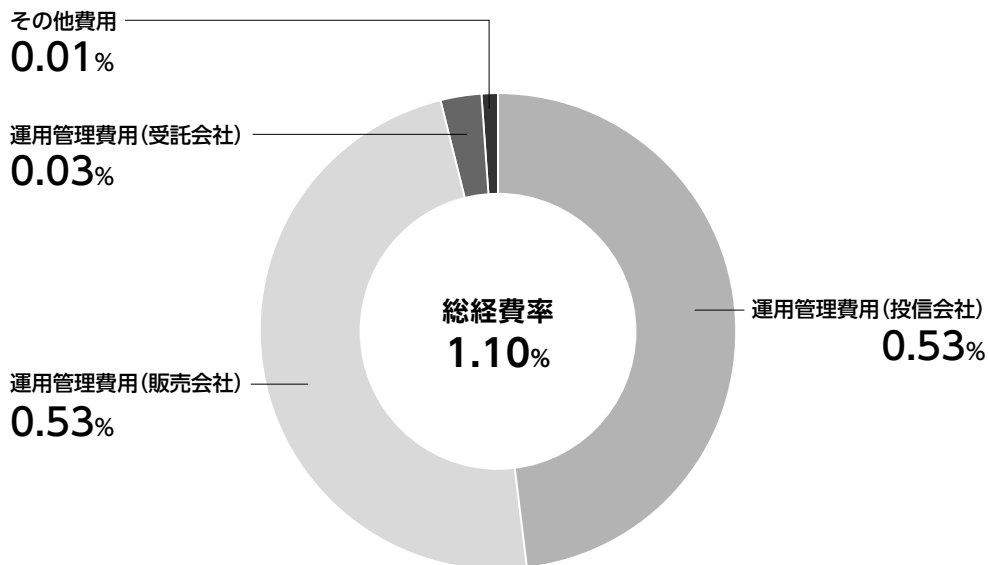
※比率欄は1万口当たりのそれぞれの費用金額を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

※各項目毎に円未満は四捨五入しています。

※売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、当ファンドが組み入れているマザーファンドが支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。



参考情報 総経費率(年率換算)



※各費用は、前掲「1万口当たりの費用明細」において用いた簡便法により算出したもので、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

※各比率は、年率換算した値(小数点以下第2位未満を四捨五入)です。

※上記の前提条件で算出しているため、「1万口当たりの費用明細」の各比率とは、値が異なる場合があります。なお、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

当作成期中の運用・管理にかかった費用の総額(原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。)を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額(1口当たり)を乗じた数で除した総経費率(年率換算)は1.10%です。

■ 当作成期中の売買及び取引の状況 (2022年5月14日から2022年11月14日まで)

親投資信託受益証券の設定、解約状況

	当 作 成 期			
	設 定		解 約	
	口 数	金 額	口 数	金 額
	千口	千円	千口	千円
トヨタグループ株式マザーファンド	201,211	943,550	191,879	877,570
トヨタグループ・グローバルボンド・マザーファンド	92,381	119,680	61,834	80,100

■ 親投資信託の株式売買金額の平均組入株式時価総額に対する割合

(2022年5月14日から2022年11月14日まで)

項 目	当 作 成 期
	トヨタグループ株式マザーファンド
(a) 作成期中の株式売買金額	26,721,510千円
(b) 作成期中の平均組入株式時価総額	127,771,729千円
(c) 売買高比率 (a) / (b)	0.20

※(b)は各月末現在の組入株式時価総額の平均。

※外貨建資産については、(a)は各月末(ただし、決算日の属する月については決算日)の日本の対顧客電信売買相場の仲値で換算した邦貨金額の合計、(b)は各月末の同仲値で換算した邦貨金額合計の平均です。

■ 利害関係人との取引状況等 (2022年5月14日から2022年11月14日まで)

当作成期中における利害関係人との取引等はありません。

※利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

■ 第一種金融商品取引業、第二種金融商品取引業又は商品取引受託業務を兼業している委託会社の自己取引状況 (2022年5月14日から2022年11月14日まで)

該当事項はございません。また委託会社に売買委託手数料は支払われておりません。

■ 組入れ資産の明細(2022年11月14日現在)

親投資信託残高

種 類	作成期首			作 成 期 末		
	口 数		口 数	評 価 額		
	千口		千口	千円		
トヨタグループ株式マザーファンド	179,868		189,201	826,335		
トヨタグループ・グローバルボンド・マザーファンド	1,304,692		1,335,240	1,710,309		

※各親投資信託の作成期末の受益権総口数は以下の通りです。

トヨタグループ株式マザーファンド 30,298,728,976口 トヨタグループ・グローバルボンド・マザーファンド 2,233,726,945口

■ 投資信託財産の構成

(2022年11月14日現在)

項 目	作 成 期 末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
トヨタグループ株式マザーファンド	826,335	24.2
トヨタグループ・グローバルボンド・マザーファンド	1,710,309	50.0
コ ー ル ・ ロ ー ン 等 、 そ の 他	884,739	25.9
投 資 信 託 財 産 総 額	3,421,384	100.0

※トヨタグループ・グローバルボンド・マザーファンドにおいて、作成期末における外貨建資産(2,755,146千円)の投資信託財産総額(2,880,153千円)に対する比率は95.7%です。

※外貨建資産は、作成期末の時価を日本の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。なお、作成期末における邦貨換算レートは、1アメリカ・ドル=139.60円、1カナダ・ドル=105.25円、1オーストラリア・ドル=93.48円、1イギリス・ポンド=164.66円、1ユーロ=144.16円です。

■ 資産、負債、元本及び基準価額の状況

(2022年8月15日) (2022年11月14日)

項目	第32期末	第33期末
(A) 資産	3,399,773,569円	3,421,384,707円
コール・ローン等	20,157,623	868,419,447
トヨタグループ株式 マザーファンド(評価額)	1,672,564,502	826,335,712
トヨタグループグローバルボンド・ マザーファンド(評価額)	1,707,051,444	1,710,309,548
未収入金	—	16,320,000
(B) 負債	11,752,057	36,214,928
未払解約金	2,527,809	26,840,190
未払信託報酬	9,168,557	9,297,470
その他未払費用	55,691	77,268
(C) 純資産総額(A-B)	3,388,021,512	3,385,169,779
元本	3,314,076,183	3,338,597,215
次期繰越損益金	73,945,329	46,572,564
(D) 受益権総口数	3,314,076,183口	3,338,597,215口
1万口当たり基準価額(C/D)	10,223円	10,139円

※当作成期における作成期首元本額3,165,321,895円、作成期中追加設定元本額376,382,997円、作成期中一部解約元本額203,107,677円です。

※上記表中の次期繰越損益金がマイナス表示の場合は、当該金額が投資信託財産の計算に関する規則第55条の第6第10号に規定する額(元本の欠損)となります。

※上記表中の受益権総口数および1万口当たり基準価額が、投資信託財産の計算に関する規則第55条の第7号および第11号に規定する受益権の総数および計算口数当たりの純資産の額となります。

■ 損益の状況

(自2022年5月14日) (自2022年8月16日)
(至2022年8月15日) (至2022年11月14日)

項目	第32期	第33期
(A) 配当等収益	△ 26,509円	△ 115,090円
受取利息	1,571	5,618
支払利息	△ 28,080	△ 120,708
(B) 有価証券売買損益	72,991,145	△ 19,192,582
売益	74,238,877	14,577,688
売買損	△ 1,247,732	△ 33,770,270
(C) 信託報酬等	△ 9,235,141	△ 9,391,064
(D) 当期損益金(A+B+C)	63,729,495	△ 28,698,736
(E) 前期繰越損益金	15,057,937	75,498,344
(F) 追加信託差損益金	△ 4,842,103	△ 227,044
(配当等相当額)	(205,391,751)	(215,271,943)
(売買損益相当額)	(△210,233,854)	(△215,498,987)
(G) 合計(D+E+F)	73,945,329	46,572,564
次期繰越損益金(G)	73,945,329	46,572,564
追加信託差損益金	△ 4,842,103	△ 227,044
(配当等相当額)	(205,569,646)	(215,567,874)
(売買損益相当額)	(△210,411,749)	(△215,794,918)
分配準備積立金	166,513,719	171,067,393
繰越損益金	△ 87,726,287	△124,267,785

※有価証券売買損益は各期末の評価換えによるものを含みます。

※株式投信の信託報酬等には消費税等相当額が含まれており、公社債投信には内訳の一部に消費税等相当額が含まれています。

※追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

※分配金の計算過程は以下の通りです。

	第32期	第33期
(a) 経費控除後の配当等収益	8,807,061円	11,505,010円
(b) 経費控除後の有価証券売買等損益	0	0
(c) 収益調整金	205,569,646	215,567,874
(d) 分配準備積立金	157,706,658	159,562,383
(e) 当期分配対象額(a+b+c+d)	372,083,365	386,635,267
1万口当たり当期分配対象額	1,122.74	1,158.08
(f) 分配金	0	0
1万口当たり分配金	0	0

■ 分配金のお知らせ

1万口当たり分配金(税引前)	第32期	第33期
	0円	0円

上記のほか、投資信託財産の計算に関する規則第58条第1項各号に該当する事項はありません。

トヨタグループ株式マザーファンド

第19期 (2021年11月16日から2022年11月14日まで)

信託期間	無期限 (設定日: 2003年11月14日)
運用方針	<ul style="list-style-type: none"> トヨタ自動車およびそのグループ会社[*]の株式に投資し、信託財産の成長を目指して運用を行います。 ※グループ会社とは、トヨタ自動車株式会社の有価証券報告書、四半期報告書およびこれらに準じる公開情報に開示される連結子会社、持分法適用関連会社をいいます。

原則として、各表の数量および金額の単位未満は切捨て、比率は四捨五入で表記しています。ただし、単位未満の数値については小数を表記する場合があります。

■ 最近 5 期の運用実績

決算期	基準価額		(参考指数) TOPIX (東証株価指数)		株式組入 比率	純資産 総額
	円	期中 騰落率	円	期中 騰落率		
15期 (2018年11月13日)	29,694	△12.1	1,638.45	△ 8.1	98.5	83,712
16期 (2019年11月13日)	34,135	15.0	1,700.33	3.8	98.1	91,222
17期 (2020年11月13日)	32,268	△ 5.5	1,703.22	0.2	97.8	95,867
18期 (2021年11月15日)	47,115	46.0	2,048.52	20.3	98.6	113,594
19期 (2022年11月14日)	43,675	△ 7.3	1,956.90	△ 4.5	98.6	132,329

※株式組入比率には、新株予約権証券を含みます。

※指数の著作権、知的所有権、その他一切の権利は発行者、許諾者が有しています。これら発行者、許諾者は当ファンドの運営に何ら関与するものではなく、当ファンドの運用成果に対して一切の責任を負うものではありません。

※参考指数は市場の動きを示す目的で記載しており、当ファンドが当該参考指数を意識して運用しているわけではありません。

■ 当期中の基準価額と市況等の推移

年 月 日	基 準 価 額		(参 考 指 数) TOPIX (東証株価指数)		株 式 組 入 比 率
	円	騰 落 率 %		騰 落 率 %	
(期 首) 2021年11月15日	47,115	—	2,048.52	—	98.6
11月末	44,800	△ 4.9	1,928.35	△ 5.9	99.8
12月末	47,291	0.4	1,992.33	△ 2.7	99.9
2022年1月末	47,075	△ 0.1	1,895.93	△ 7.4	99.9
2月末	45,384	△ 3.7	1,886.93	△ 7.9	99.9
3月末	46,129	△ 2.1	1,946.40	△ 5.0	98.7
4月末	45,577	△ 3.3	1,899.62	△ 7.3	98.7
5月末	45,296	△ 3.9	1,912.67	△ 6.6	99.7
6月末	44,219	△ 6.1	1,870.82	△ 8.7	99.9
7月末	44,254	△ 6.1	1,940.31	△ 5.3	99.9
8月末	44,929	△ 4.6	1,963.16	△ 4.2	99.9
9月末	40,286	△14.5	1,835.94	△10.4	98.5
10月末	44,215	△ 6.2	1,929.43	△ 5.8	98.6
(期 末) 2022年11月14日	43,675	△ 7.3	1,956.90	△ 4.5	98.6

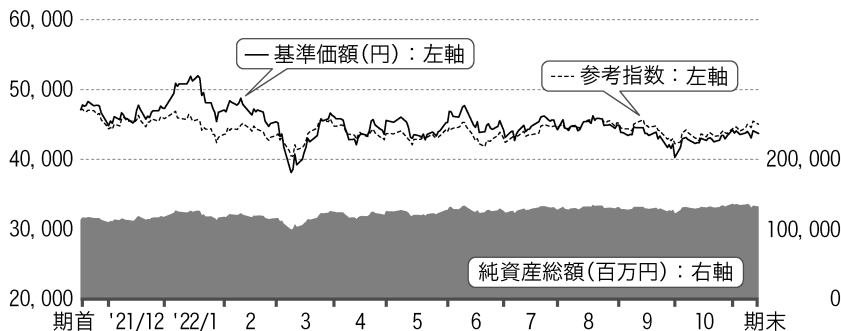
※騰落率は期首比です。

※株式組入比率には、新株予約権証券を含みます。

1 運用経過

▶ 基準価額等の推移について (2021年11月16日から2022年11月14日まで)

基準価額等の推移



期首	47,115円
期末	43,675円
騰落率	-7.3%

※参考指数は、期首の値が基準価額と同一となるように指数化しています。

※当ファンドの参考指数は、TOPIX (東証株価指数) です。

※指数の著作権、知的所有権、その他一切の権利は発行者、許諾者が有しています。これら発行者、許諾者は当ファンドの運営に何ら関与するものではなく、当ファンドの運用成果に対して一切の責任を負うものではありません。

▶ 基準価額の主な変動要因 (2021年11月16日から2022年11月14日まで)

当ファンドは、トヨタ自動車およびそのグループ会社※のうち、日本の取引所第一部に上場している株式から流動性を勘案した銘柄（原則として、東京証券取引所第一部上場銘柄）に投資しました。なお、東京証券取引所の市場区分見直しに伴い、投資銘柄を2022年4月4日以降は東京証券取引所第一部上場銘柄からTOPIX（東証株価指数）採用銘柄としています。

※グループ会社とは、トヨタ自動車株式会社の有価証券報告書、四半期報告書およびこれらに準じる公開情報に開示される連結子会社、持分法適用関連会社をいいます。

上昇要因

- ・日本銀行の金融緩和政策の維持が示されたことなどから国内株式市場が上昇したこと
- ・SUBARUの株価が上昇したこと

下落要因

- ・変異ウイルス（オミクロン型）の感染拡大やウクライナ情勢が緊迫したことから、国内株式市場が下落したこと
- ・デンソー、豊田自動織機、小糸製作所などの株価が下落したこと

▶ 投資環境について (2021年11月16日から2022年11月14日まで)

期間における日本株式市場は下落しました。

期初から2021年12月にかけては、変異ウイルス（オミクロン型）の世界的感染拡大、米国のインフレ懸念や中国不動産問題などが嫌気され、上値の重い展開となりました。

2022年1月から3月中旬にかけては、変異ウイルス（オミクロン型）の感染急拡大や、ウクライナ情勢の緊迫化、ロシアへの経済制裁を背景とした原油市況の高騰などから世界景気の回復の遅れが懸念され下落しました。その後、ウクライナ情勢に対する過度な警戒感の緩和や米国の金融政策イベント通過により投資家心理が持ち直し、国内でも日本銀行の金融緩和政策の維持が示されたことで上昇しました。

6月から期末にかけては欧米の金融政策動向に左右される形で一進一退の展開が続きました。

▶ ポートフォリオについて (2021年11月16日から2022年11月14日まで)

投資行動

原則として組入銘柄の時価総額に応じて投資比率を決定しますが、全期間にわたってトヨタ自動車株式の時価総額が組入銘柄の時価総額合計の50%を超えていましたので、トヨタ自動車株式の投資比率を約50%とし、残りの約50%をグループ会社株式の各銘柄の時価総額に応じた比率に近づくように運用を行いました。

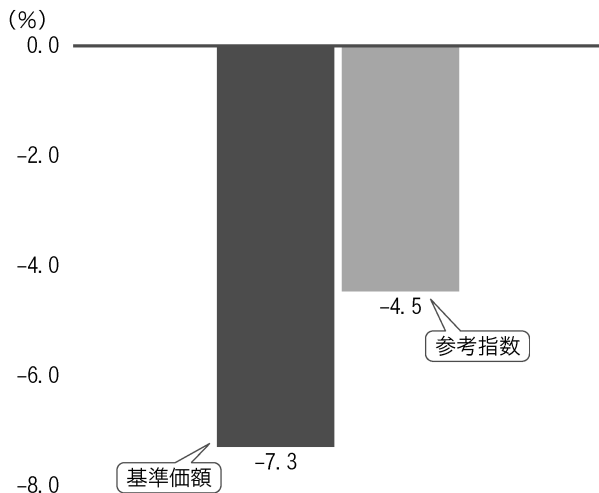
日々の設定解約に伴う売買の際には、トヨタ自動車株式への投資比率が約50%、グループ会社の株式への投資比率が約50%に近づくようポートフォリオを調整しました。追加設定やリバランス（投資配分比率の調整）に伴う現物株式の売買にあたっては、取引コストの低減に努めました。

リバランス

運用の基本方針に基づき、四半期末を基準としてリバランスを行うこととしています。2021年12月末、2022年3月末、6月末、9月末について翌月にリバランスを実施しました。

▶ ベンチマークとの差異について (2021年11月16日から2022年11月14日まで)

基準価額と参考指数の騰落率対比



当ファンドは運用の指標となるベンチマークはありませんが、参考指数としてTOPIX（東証株価指数）を設けています。

左のグラフは、基準価額と参考指数の騰落率の対比です。

② 今後の運用方針

引き続き運用の基本方針に基づき、トヨタ自動車およびそのグループ会社の銘柄群の動きをとらえることを目標に運用を行います。ポートフォリオの構築は、原則として組入銘柄の時価総額に応じて投資比率を決定しますが、トヨタ自動車株式の時価総額が組入銘柄の時価総額合計の50%を超える場合には、トヨタ自動車株式の投資比率を約50%とし、残りの約50%をグループ会社株式の各銘柄の時価総額に応じた比率に近づくよう運用を行います。

■ 1万口当たりの費用明細(2021年11月16日から2022年11月14日まで)

項目	金額	比率	項目の概要
(a) 売買委託手数料 (株式)	14円 (14)	0.030% (0.030)	売買委託手数料＝期中の売買委託手数料／期中の平均受益権口数 売買委託手数料：有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(b) その他費用 (その他)	0 (0)	0.000 (0.000)	その他費用＝期中のその他費用／期中の平均受益権口数 その他：信託事務の処理等に要するその他費用
合計	14	0.030	

期中の平均基準価額は45,025円です。

※期中の費用(消費税のかかるものは消費税を含む)は、追加・解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出しています。

※比率欄は1万口当たりのそれぞれの費用金額を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

※各項目毎に円未満は四捨五入しています。

■ 当期中の売買及び取引の状況(2021年11月16日から2022年11月14日まで)

株 式

		買 付		売 付	
		株 数	金 額	株 数	金 額
国内	上 場	千株	千円	千株	千円
		16,347.4 (688.3)	46,055,604 (-)	5,473.6	16,188,276

※金額は受渡し代金。

※()内は株式分割、予約権行使、合併等による増減分で、上段の数字には含まれておりません。

■ 株式売買金額の平均組入株式時価総額に対する割合

(2021年11月16日から2022年11月14日まで)

項 目	当 期
(a) 期中の株式売買金額	62,243,880千円
(b) 期中の平均組入株式時価総額	122,857,115千円
(c) 売買高比率 (a) / (b)	0.50

※(b)は各月末現在の組入株式時価総額の平均。

※外貨建資産については、(a)は各月末(ただし、決算日の属する月については決算日)の日本の対顧客電信売買相場の仲値で換算した邦貨金額の合計、(b)は各月末の同仲値で換算した邦貨金額合計の平均です。

トヨタグループ株式マザーファンド

■ 利害関係人との取引状況等 (2021年11月16日から2022年11月14日まで)

(1) 利害関係人との取引状況

区 分	買付額等 A	うち利害関係人 との取引状況B	B	売付額等 C	うち利害関係人 との取引状況D	D
			A			C
株 式	百万円 46,055	百万円 793	% 1.7	百万円 16,188	百万円 420	% 2.6

(2) 売買委託手数料総額に対する利害関係人への支払比率

項 目	当 期
(a) 売 買 委 託 手 数 料 総 額	37,538千円
(b) うち利害関係人への支払額	935千円
(c) (b) / (a)	2.5%

利害関係人とは、投資信託および投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人であり、当期における当ファンドに係る利害関係人とは、S M B C日興証券株式会社です。

■ 第一種金融商品取引業、第二種金融商品取引業又は商品取引受託業務を兼業している委託会社の自己取引状況 (2021年11月16日から2022年11月14日まで)

該当事項はございません。また委託会社に売買委託手数料は支払われておりません。

■ 組入れ資産の明細 (2022年11月14日現在)

国内株式

銘 柄	期首(前期末)		期 末	
	株 数	株 数	株 数	評 価 額
	千株	千株		千円
化学(0.0%)				
共和レザー	75.5	102.7		50,733
鉄鋼(0.1%)				
愛知製鋼	61.3	83.4		192,237
金属製品(0.1%)				
中央発條	78.7	107.1		75,291
機械(1.2%)				
大豊工業	89.9	122.4		84,088
ジェイテクト	1,057	1,440.2		1,430,118
電気機器(2.3%)				
澤藤電機	13.3	18.1		22,371
小糸製作所	495.1	1,349.1		3,028,729
輸送用機器(90.4%)				
トヨタ紡織	577.8	787.3		1,521,850
豊田自動織機	1,003.3	1,367		10,471,220

銘 柄	期首(前期末)		期 末	
	株 数	株 数	株 数	評 価 額
デンソー	2,426.1	3,305.7		24,951,423
東海理化電機製作所	290.2	395.3		605,994
トヨタ自動車	26,737	32,848.9		65,237,915
日野自動車	1,769.1	2,410.6		1,513,856
フタバ産業	275.8	375.8		139,046
アイシン	907.3	1,236.3		4,691,758
S U B A R U	2,368.3	3,227		7,426,940
豊田合成	400.4	545.7		1,237,101
愛三工業	194.2	264.6		183,632
卸売業(5.9%)				
豊田通商	1,090.2	1,485.4		7,649,810
合 計	株 数 ・ 金 額	39,910.5	51,472.6	130,514,121
	銘 柄 数 < 比 率 >	19	19	< 98.6% >

※銘柄欄の()内は、国内株式の評価総額に対する各業種の比率。
※< >内は、純資産総額に対する評価額の比率。

トヨタグループ株式マザーファンド

■ 投資信託財産の構成

(2022年11月14日現在)

項 目	期 末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
株 式	130,514,121	98.5
コ ー ル ・ ロ ー ン 等 、 そ の 他	1,928,272	1.5
投 資 信 託 財 産 総 額	132,442,393	100.0

■ 資産、負債、元本及び基準価額の状況

(2022年11月14日現在)

項 目	期 末
(A) 資 産	132,442,393,553円
コ ー ル ・ ロ ー ン 等	239,278,553
株 式 (評 価 額)	130,514,121,500
未 収 配 当 金	1,688,993,500
(B) 負 債	112,888,328
未 払 金	110,763,695
未 払 解 約 金	2,111,647
そ の 他 未 払 費 用	12,986
(C) 純 資 産 総 額 (A - B)	132,329,505,225
元 本	30,298,728,976
次 期 繰 越 損 益 金	102,030,776,249
(D) 受 益 権 総 口 数	30,298,728,976口
1 万 口 当 ち 基 準 価 額 (C / D)	43,675円

※当期における期首元本額24,110,302,727円、期中追加設定元本額9,346,405,013円、期中一部解約元本額3,157,978,764円です。

※上記表中の次期繰越損益金がマイナス表示の場合は、当該金額が投資信託財産の計算に関する規則第55条の6第10号に規定する額(元本の欠損)となります。

※期末における元本の内訳は以下の通りです。

トヨタ自動車/トヨタグループ株式ファンド	28,256,483,122円
DCトヨタ自動車/トヨタグループ株式ファンド	1,734,515,144円
トヨタグループ・バランスファンド	189,201,079円
SMAM・年金トヨタグループ株式ファンド<非課税適格機関投資家限定>	118,529,631円

※上記表中の受益権総口数および1万口当たり基準価額が、投資信託財産の計算に関する規則第55条の6第7号および第11号に規定する受益権の総数および計算口数当たりの純資産の額となります。

■ お知らせ

<約款変更について>

・2022年4月の東京証券取引所の市場区分の見直しに伴い、関連する記載について、所要の変更を行いました。

(適用日：2022年4月4日)

■ 損益の状況

(自2021年11月16日 至2022年11月14日)

項 目	当 期
(A) 配 当 等 収 益	3,243,538,600円
受 取 配 当 金	3,243,787,100
受 取 利 息	9,289
そ の 他 収 益	34
支 払 利 息	△ 257,823
(B) 有 価 証 券 売 買 損 益	△ 11,390,359,230
売 買 損 益	981,620,173
売 買 損 益	△ 12,371,979,403
(C) そ の 他 費 用 等	△ 107,603
(D) 当 期 損 益 金 (A + B + C)	△ 8,146,928,233
(E) 前 期 繰 越 損 益 金	89,484,334,250
(F) 解 約 差 損 益 金	△ 11,515,346,095
(G) 追 加 信 託 差 損 益 金	32,208,716,327
(H) 合 計 (D + E + F + G)	102,030,776,249
次 期 繰 越 損 益 金 (H)	102,030,776,249

※有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。

※追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

※解約差損益金とあるのは、中途解約の際、元本から解約価額を差し引いた差額分をいいます。

トヨタグループ・グローバルボンド・マザーファンド

第9期（2021年11月16日から2022年11月14日まで）

信託期間	無期限（設定日：2014年7月1日）
運用方針	<ul style="list-style-type: none">・主としてトヨタ自動車およびそのグループ会社の発行する内外の債券等に投資することにより、信託財産の着実な成長と安定した収益の確保を目指します。・外貨建資産については、原則として対円での為替ヘッジを行いません。

原則として、各表の数量および金額の単位未満は切捨て、比率は四捨五入で表記しています。ただし、単位未満の数値については小数を表記する場合があります。

■最近5期の運用実績

決算期	基準価額		公社債 組入比率	純資産 総額
		期中 騰落率		
	円	%	%	百万円
5期(2018年11月13日)	10,441	△2.1	97.3	4,066
6期(2019年11月13日)	10,373	△0.7	95.2	2,781
7期(2020年11月13日)	10,864	4.7	96.8	3,108
8期(2021年11月15日)	11,887	9.4	96.1	2,589
9期(2022年11月14日)	12,809	7.8	93.7	2,861

※当ファンドの運用方針に対し適切に比較できる指数がないため、ベンチマークおよび参考指数はありません。

■ 当期中の基準価額と市況等の推移

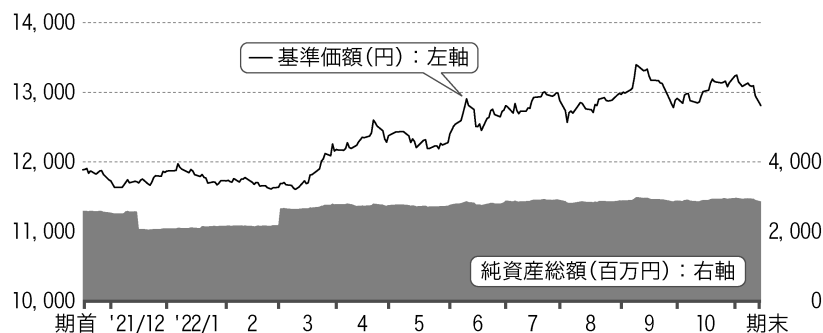
年 月 日	基準価額		公社債 組入比率
		騰落率	
(期首) 2021年11月15日	円 11,887	% —	% 96.1
11月末	11,726	△ 1.4	96.6
12月末	11,870	△ 0.1	94.9
2022年1月末	11,727	△ 1.3	94.7
2月末	11,634	△ 2.1	95.2
3月末	12,179	2.5	94.7
4月末	12,377	4.1	97.0
5月末	12,402	4.3	96.7
6月末	12,809	7.8	95.5
7月末	12,881	8.4	95.3
8月末	12,969	9.1	94.6
9月末	12,914	8.6	93.9
10月末	13,235	11.3	93.7
(期末) 2022年11月14日	12,809	7.8	93.7

※騰落率は期首比です。

1 運用経過

▶ 基準価額等の推移について (2021年11月16日から2022年11月14日まで)

基準価額等の推移



期首	11,887円
期末	12,809円
騰落率	+7.8%

▶ 基準価額の主な変動要因 (2021年11月16日から2022年11月14日まで)

当ファンドは、主としてトヨタ自動車およびそのグループ会社の発行する債券等に投資しました。ポートフォリオの構築にあたっては通貨配分、債券発行各国の金利見通し、デュレーション（投資資金の平均回収期間：金利の変動による債券価格の感応度）、流動性等を勘案し銘柄を決定しました。外貨建資産については、対円での為替ヘッジは行っていません。

上昇要因

- ・社債の金利収入
- ・米ドル高・円安で推移したこと

下落要因

- ・社債利回りの上昇（社債価格は下落）

▶ 投資環境について (2021年11月16日から2022年11月14日まで)

F R B（米連邦準備制度理事会）が利上げを継続し、社債金利は上昇しました。為替市場では米ドルが対円で上昇しました。

債券市場

米国債利回りは上昇傾向で推移しました。金融政策正常化の過程で、インフレ率の上昇に対応するF R Bの政策金利引き上げにより上昇基調で推移しました。

社債スプレッド（国債に対する上乘せ金利）は、国債利回りの上昇による投資環境の悪化により拡大基調で推移しました。その結果、社債利回りは上昇しました。

為替市場

為替市場については、米国でインフレ抑制に向けて金融引き締めが継続される一方、日本は緩和姿勢を維持していることなどから、米ドル高・円安が加速しました。その後、日銀が米ドル売り・円買いの為替介入に踏み切ったことや、F R Bが利上げペースを緩めるとの見方が浮上したことから、円安進行に一旦歯止めがかかりました。

▶ ポートフォリオについて (2021年11月16日から2022年11月14日まで)

債券組入比率

トヨタ自動車グループが発行する社債を高水準に組み入れ、安定的に金利収入を得ることができました。

デュレーション

デュレーションについては3年程度としました。

発行体配分

組入発行体の配分については、トヨタモータークレジット、トヨタクレジットカナダ、トヨタファイナンスオーストラリア、トヨタファイナンスネザールランドの4発行体が発行する社債を期末時点で10銘柄保有しており、最大保有発行体であるトヨタモータークレジットの保有比率は純資産総額の50%以下としています。

通貨別配分

期末時点で豪ドル、カナダドル、米ドル、英ポンド、ユーロのエクスポージャーを有しております。外貨建資産について対円での為替ヘッジは行っていません。

▶ ベンチマークとの差異について (2021年11月16日から2022年11月14日まで)

ベンチマークおよび参考指数を設けていませんので、この項目に記載する事項はありません。

2 今後の運用方針

米国では、好調な雇用環境とインフレの高止まりに対する警戒から政策金利の引き上げ継続が見込まれています。ただし、金融市場は来年には政策金利の引き上げ幅の縮小を予想しており、経済成長やインフレ率の状況を確認していく局面となりそうです。国債利回りの上昇余地は限定的となり、大きなレンジでもみ合う展開を予想しています。

社債スプレッドは短期的には不安定な展開が予想されますが、国債利回りが落ち着いてくると社債利回りの水準に着目した投資需要に支えられ、安定化すると考えています。

米ドル/円は、米国でインフレ抑制に向けて金融引き締めが継続される一方、日本は緩和姿勢を維持していることなどから、米ドル高・円安圧力が残る見通しです。しかしながら、今後の米国の利上げを市場は相当程度織り込んでいることから、米ドルの上昇余地は限定的となり、もみ合う展開を予想します。

こうした投資環境見通しをベースに、通貨配分、債券発行各国の金利見通し、デュレーション、流動性等を勘案し、主としてトヨタ自動車およびそのグループ会社の発行する社債へ投資することで、信託財産の着実な成長と安定した収益の確保を目指します。

■ 1万口当たりの費用明細(2021年11月16日から2022年11月14日まで)

項目	金額	比率	項目の概要
(a) その他費用	1円	0.011%	その他費用＝期中のその他費用／期中の平均受益権口数 保管費用：海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管および資金の送入金・資産の移転等に要する費用 その他：信託事務の処理等に要するその他費用
（保管費用）	(1)	(0.010)	
（その他）	(0)	(0.001)	
合計	1	0.011	

期中の平均基準価額は12,387円です。

※期中の費用(消費税のかかるものは消費税を含む)は、追加・解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出しています。

※比率欄は1万口当たりのそれぞれの費用金額を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

※各項目毎に円未満は四捨五入しています。

■ 当期中の売買及び取引の状況(2021年11月16日から2022年11月14日まで)

公社債

			買付額	売付額
外	アメリカ	社債券	千アメリカ・ドル 2,831	千アメリカ・ドル 2,150
	カナダ	社債券	千カナダ・ドル 1,944	千カナダ・ドル -
国	オーストラリア	社債券	千オーストラリア・ドル 1,937	千オーストラリア・ドル 4,066
	イギリス	社債券	千イギリス・ポンド 296	千イギリス・ポンド 598

※金額は受渡し代金。(経過利子分は含まれておりません。)

※社債券には新株予約権付社債(転換社債)は含まれておりません。

■ 利害関係人との取引状況等(2021年11月16日から2022年11月14日まで)

当期中における利害関係人との取引等はありません。

※利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

■ 第一種金融商品取引業、第二種金融商品取引業又は商品取引受託業務を兼業している委託会社の自己取引状況
(2021年11月16日から2022年11月14日まで)

該当事項はございません。また委託会社に売買委託手数料は支払われておりません。

■ 組入れ資産の明細(2022年11月14日現在)

公社債

A 債券種類別開示

外国(外貨建)公社債

区 分	額 面 金 額	期			末			
		評 価 額		組入比率	うちBB格以下 組入比率	残存期間別組入比率		
		外 貨 建 金 額	邦 貨 換 算 金 額			5年以上	2年以上	2年未満
ア メ リ カ	千アメリカ・ドル 9,300	千アメリカ・ドル 8,237	千円 1,149,977	% 40.2	% —	% 36.9	% 3.3	% —
カ ナ ダ	千カナダ・ドル 7,600	千カナダ・ドル 7,308	769,222	26.9	—	—	—	26.9
オーストラリア	千オーストラリア・ドル 4,400	千オーストラリア・ドル 4,299	401,918	14.0	—	—	—	14.0
イギリス	千イギリス・ポンド 300	千イギリス・ポンド 289	47,651	1.7	—	—	1.7	—
ユ ー ロ	千ユーロ	千ユーロ						
オ ラ ン ダ	2,200	2,161	311,646	10.9	—	—	—	10.9
合 計	—	—	2,680,416	93.7	—	36.9	5.0	51.8

※邦貨換算金額は、期末の時価を日本の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。

※組入比率は、純資産総額に対する評価額の割合。

トヨタグループ・グローバルボンド・マザーファンド

B 個別銘柄開示 外国(外貨建)公社債

区 分	銘 柄	種 類	期 末				償還年月日
			利 率	額面金額	評 価 額		
					外貨建金額	邦貨換算金額	
ア メ リ カ	TOYOTA MOTOR CREDIT CORP	社債券	2.1500	2,300	千アメリカ・ドル 1,919	千円 267,960	2030/02/13
	TOYOTA MTR CRED	社債券	1.1500	800	675	94,356	2027/08/13
	TOYOTA MTR CRED	社債券	3.0500	3,400	3,113	434,637	2028/01/11
	TOYOTA MTR CRED	社債券	3.3750	2,800	2,528	353,023	2030/04/01
小 計				9,300	8,237	1,149,977	—
カ ナ ダ	TOYOTA CREDIT CANADA INC	社債券	1.2700	千カナダ・ドル 2,000	千カナダ・ドル 1,881	197,994	2024/07/22
	TOYOTA CRED CAN	社債券	2.6400	5,600	5,427	571,228	2024/03/27
小 計				7,600	7,308	769,222	—
オーストラリア	TOYOTA FINANCE AUSTRALIA	社債券	0.8500	千オーストラリア・ドル 1,000	千オーストラリア・ドル 935	87,486	2024/09/09
	TOYOTA FIN AUSTR	社債券	3.3000	3,400	3,363	314,431	2023/11/22
小 計				4,400	4,299	401,918	—
イギリス	TOYOTA FINANCE AUSTRALIA	社債券	3.9200	千イギリス・ポンド 300	千イギリス・ポンド 289	47,651	2027/06/28
小 計				300	289	47,651	—
ユ ー ロ				千ユーロ	千ユーロ		
オランダ	TOYOTA MOTOR FIN	社債券	0.6250	2,200	2,161	311,646	2023/09/26
小 計				2,200	2,161	311,646	—
合 計				—	—	2,680,416	—

※邦貨換算金額は、期末の時価を日本の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。

■ 投資信託財産の構成

(2022年11月14日現在)

項 目	期 末	
	評 価 額	比 率
公 社 債	千円 2,680,416	% 93.1
コ ー ル ・ ロ ー ン 等 、 そ の 他	199,736	6.9
投 資 信 託 財 産 総 額	2,880,153	100.0

※期末における外貨建資産(2,755,146千円)の投資信託財産総額(2,880,153千円)に対する比率は95.7%です。

※外貨建資産は、期末の時価を日本の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。なお、期末における邦貨換算レートは、1アメリカ・ドル=139.60円、1カナダ・ドル=105.25円、1オーストラリア・ドル=93.48円、1イギリス・ポンド=164.66円、1ユーロ=144.16円です。

■ 資産、負債、元本及び基準価額の状況

(2022年11月14日現在)

項 目	期 末
(A) 資 産	2,880,153,457円
コ ー ル ・ ロ ー ン 等	181,978,851
公 社 債 (評 価 額)	2,680,416,546
未 収 利 息	16,325,441
前 払 費 用	1,432,619
(B) 負 債	18,863,557
未 払 解 約 金	18,860,706
そ の 他 未 払 費 用	2,851
(C) 純 資 産 総 額 (A - B)	2,861,289,900
元 本	2,233,726,945
次 期 繰 越 損 益 金	627,562,955
(D) 受 益 権 総 口 数	2,233,726,945口
1 万 口 当 た り 基 準 価 額 (C / D)	12,809円

※当期における期首元本額2,178,400,819円、期中追加設定元本額832,691,070円、期中一部解約元本額777,364,944円です。

※上記表中の次期繰越損益金がマイナス表示の場合は、当該金額が投資信託財産の計算に関する規則第55条の6第10号に規定する額(元本の欠損)となります。

※期末における元本の内訳は以下の通りです。

トヨタグループ・バランスファンド 1,335,240,494円

トヨタモータークレジット/トヨタグループ債券ファンド 898,486,451円

※上記表中の受益権総口数および1万口当たり基準価額が、投資信託財産の計算に関する規則第55条の6第7号および第11号に規定する受益権の総数および計算口数当たりの純資産の額となります。

■ お知らせ

＜約款変更について＞

該当事項はございません。

■ 損益の状況

(自2021年11月16日 至2022年11月14日)

項 目	当 期
(A) 配 当 等 収 益	64,525,972円
受 取 利 息	64,570,970
支 払 利 息	△ 44,998
(B) 有 価 証 券 売 買 損 益	144,114,153
売 買 損 益	434,099,390
売 買 損 益	△289,985,237
(C) そ の 他 費 用 等	△ 294,395
(D) 当 期 損 益 金 (A + B + C)	208,345,730
(E) 前 期 繰 越 損 益 金	411,023,062
(F) 解 約 差 損 益 金	△155,477,337
(G) 追 加 信 託 差 損 益 金	163,671,500
(H) 合 計 (D + E + F + G)	627,562,955
次 期 繰 越 損 益 金 (H)	627,562,955

※有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。

※追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

※解約差損益金とあるのは、中途解約の際、元本から解約価額を差し引いた差額分をいいます。